

1 単元名 リレー

2 運動の特性

(1) 一般的特性

一人一人が全力で走りながらバトンをつなぎ、相手チームと競走したり自分のチームの記録を高めたりすることが楽しい運動である。

(2) 子どもから見た特性 (男子15名 女子10名 計25名)

A 運動の楽しさの体験状況

① 体を動かすことは好きですか。

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
15名	10名	0名	0名

② 体育の学習は好きですか。(理由は複数回答)

とても好き	好き	あまり好きではない	好きではない
13名	11名	1名	0名
体を動かすことが好き	10名	疲れる 1名	
楽しい	9名		
好きな運動がある	5名		
普段から運動をしている	2名		
チームプレイを楽しめる	1名		
健康になれる	1名		

③ リレーの学習は楽しみですか。

とても楽しみ	楽しみ	あまり楽しみではない	楽しみではない
15名	5名	3名	2名
協力できる	7名	走るのが苦手 2名	足が痛くなる 1名
《内訳》		疲れる 1名	疲れる 1名
みんなで力を合わせられる	3名		
みんなで勝つ方法を考えられる	2名		
みんなで意見を出し合える	1名		
みんなで課題を解決できる	1名		
リレーが好き	4名		
走ることが好き	3名		
記録が縮まるとうれしい	3名		
いろいろなチームと競走できる	2名		
追い返すのが好き	1名		

④ リレーのおもしろさはどんなところですか。(複数回答)

一人ではなく仲間と協力できること、みんなで楽しめる	8名
抜かしたり抜かされたりする緊張感、最後まで勝負がわからない	7名
メンバーや走る順番で順位が変わるからそれを考えたり、工夫したりする	4名
味方を信じて応援できる	4名
バトンパス	3名
一生懸命走って最後までバトンをつなぐ	1名

⑤ リレーの難しさはどんなところですか。(複数回答)

バトンパス	17名
(受け取り方に関して・・・13名 走り出しや受渡すタイミングに関して・・・4名)	
カーブを走る	2名
走る順番を考える	2名
チームをちょうどよい速さにする	2名
速い人を抜かす	1名
油断したらすぐに抜かされる	1名

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況

① 友達と協力して学習を進めたり、準備や後片付けをしたりできますか。

誰とでもできる	仲のよい友達とならできる	できない
25名	0名	0名

② 友達に対してアドバイスができますか。

できる	資料などを参考にすればできる	むずかしそう
10名	10名	5名

③ 自分に合っためあてをもつことができますか。

もてる	資料などを参考にすればもてる	むずかしそう
10名	13名	2名

④ これから行うリレーの学習をどのような学習にしていきたいですか。(複数回答)

みんなが楽しめる	12名
真剣勝負ができる	10名
みんなが協力できる	7名
陸上大会やオリンピックの記録に挑戦したい	7名
記録を縮められる	5名
悪口を言わないで仲よくできる	2名
1位になれなくても楽しい	1名

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況

		75m走		50m走	100m走	バトンパス				その他	
		(カーブ含)	合計		(カーブ含)	リード	手首	目線	手	リレー	理由
1	男	11.8	80.7	7.7	16.3	◎	◎	◎			
2	女	12.6		8.5	17.1	●	◎				
3	男	13.1		8.3	18	△					
4	女	13.3		8.6	17.9	●	◎				
5	男	16.1		10.1	21.5	○					
6	女	13.8		9.1	19.1	△				あまり楽しみではない	疲れる
7	男	11.8	80.6	8.1	17.1	●	◎				
8	女	13.7		9.3	18.8	○	◎				
9	男	13.2		8.7	17.9	◎	◎	◎			
10	女	12.9		8.7	18.2	△					
11	男	13.9		9.6	19.4	○	◎			楽しみではない	足が痛くなる
12	女	15.1		10.1	22.3	△					
13	男	13	80.6	8.3	17.9	△					
14	男	15.1		10.3	22.3	△				あまり楽しみではない	走るのが苦手
15	女	13.3		8.9	18.9	○	◎				
16	男	13.4		8.7	18.5	△					
17	男	11.9		8	16.8	○					
18	女	13.9		9.5	20.2	○					
19	男	14.5	80.5	9.8	20.3	△					
20	女	12.3		8.3	17.3	○	◎				
21	男	13.3		8.8	18.2	△	◎				
22	女	14.8		9.5	20.3	△					
23	男	13.4		8.6	18.5	○	◎			楽しみではない	疲れる
24	男	12.2		8.1	17	△					
25	男	欠		体育参加不可					あまり楽しみではない	走るのが苦手	

《バトンパスについて》

※リードの取り方 →◎：前走者とほぼ同じスピード ○：軽く走っている
 ●：2、3歩ステップを取っている △：止まっている

※手首の返し →◎：手首を返している 無表記：手首を返していない

※目線の向き →◎：走る方を向いている 無表記：前走者の方を向いている

※手を出すタイミング →◎：前走者の合図で出せている 無表記：最初から出している

【考察】

A 運動の楽しさの体験状況について

本学級の全員が、運動や体を動かして遊ぶことが「とても好き」「好き」と回答している。

「体育の学習が好きか」という質問に対しては、「体を動かすことが好き」「体育や運動が楽しい」といった理由から24名（96%）が「とても好き」「好き」と答えている。一方、「あまり好きではない」と答えた1名（4%）は「疲れる」という理由を挙げていた。

「リレーの学習は楽しみか」という質問には20名（80%）の子どもが「とても楽しみ」「楽しみ」と回答している。理由としては、「みんなで力を合わせられる」「みんなで勝つ方法を考えられる」「みんなで意見を出し合える」「リレーが好き」「競走できる」といった内容が挙げられた。また、「走るのが苦手」「疲れる」といった理由から5名（20%）が「あまり楽しみではない」「楽しみではない」と回答している。

子どもは「最後まで勝敗がわからないこと」「仲間と協力してみんなで楽しめること」にリレーのおもしろさを感じている。本単元を楽しむための重要な要素である勝敗の不確定性はしっかりと保障できるように75m走の合計タイムがだいたい同じになるような等質チーム分けを行う。その中で、走ることが苦手な子どももチームの一員として自分ができることを精一杯頑張れるように走る距離や順番を工夫させたい。また、「みんなで」学習しようとする雰囲気大切にしていきたい。

B 運動の楽しさを求める学び方の習得状況について

本学級の全員が、「友達と協力して学習を進めたり、準備や後片付けをしたりできる」と回答している。実際、特に役割分担を決めなくても、準備や後片付けを率先して行える子どもは多い。また、「みんなで」学習しようとする意識も高い。しかしながら、「友達に対してアドバイスができますか」という質問では10名（40%）が「資料などを参考にすればできる」、5名（20%）が「できない」と回答した。同様に、「自分に合っためあてをもつことができるか」という質問に対して、13名（52%）が「資料などを参考にすればできる」、2名（8%）が「むずかしい」としている。これらは、リレーにおいて何をアドバイスしたらよいか、視点はどこなのか、また、何をめあてとすればよいかを漠然としているからだと考える。

そこで、子どもたち自身が相手チームに勝ったり、記録を向上させたりするにはどうしたらよいか気付いていけるような道すじを設定することで、自分に合っためあてをもてるようにしたい。さらに、視点や動きのポイントなどを示した手引きを作成することで、自信をもってかかわり合えるようにしたい。

C 運動の楽しさを味わうための技能の習得状況について

実態調査から、12名（48%）が止まった状態でバトンを受けていること、リードを取れていたとしても全員が手を出した状態で走っていることがわかった。また、手首を返した状態で受け取っていた子どもは11名（44%）で、その中でも目線を走る方向に向けられていたのは2名（8%）だった。

本単元では子どもの実態を踏まえ、オーバーハンドパスを基本として減速の少ないバトンパス（前走者と同じようなスピードでもらうこと）を身に付けさせていきたい。教師が一方向的に指導するのではなく、学習を通してリレーにおけるバトンパスの重要性に気付かせ、テークオーバーゾーン内で前走者と同じようなスピードまで加速してバトンを受け取ることができるようにしたい。

3 研究主題と学習の手立て

(1) 市教研体育部会の研究主題

生涯にわたって健康を保持増進し、運動に親しむ子どもを育てる体育学習

(2) 研究の視点

視点1 子どもの実態を的確に把握するとともに、運動の特性と指導内容を明確にした上で道すじや学習活動を工夫し、ねらいを明らかにすることで子どもたちが学習意欲やめあてをもって取り組めるようにする。

○子どもの実態に合った道すじの設定

子どもたちはトラックを使ったリレーの学習経験が少ない。まず、オリエンテーションの中でリレーを行う。その際、どの子どもも競い合う楽しさや勝つ喜びを経験できるように教師が提示した等質チームで競走を行う。競走なので他のチームよりも早くゴールしたいという欲求が生まれるだろう。「早くゴールする」＝「競走に勝つ」ためにチームの記録を向上させる必要がある。しかし、そのための基本的なバトンパスの技能は実態調査からも身に付いていないことがわかる。減速の少ないバトンパスを習得することやテークオーバーゾーンを有効に使用することで、リレーの楽しさをさらに広げることができる。

そこで、バトンパスのポイントを「タイミングのよいスタート」「すばやい加速」「なめらかな受渡し」の3つに絞り、単元前半に1時間に1つずつ取り上げていく。そうすることで、意識して取り組むことが明確になり、段階的にバトンパスの技能を向上させることができるだろう。

それを経て単元後半には、チームの課題に応じて練習の場を選んで活動できる時間を確保する。それまでに学習したことを生かして主体的に活動したり、活発に話し合ったりする姿が期待できるだろう。

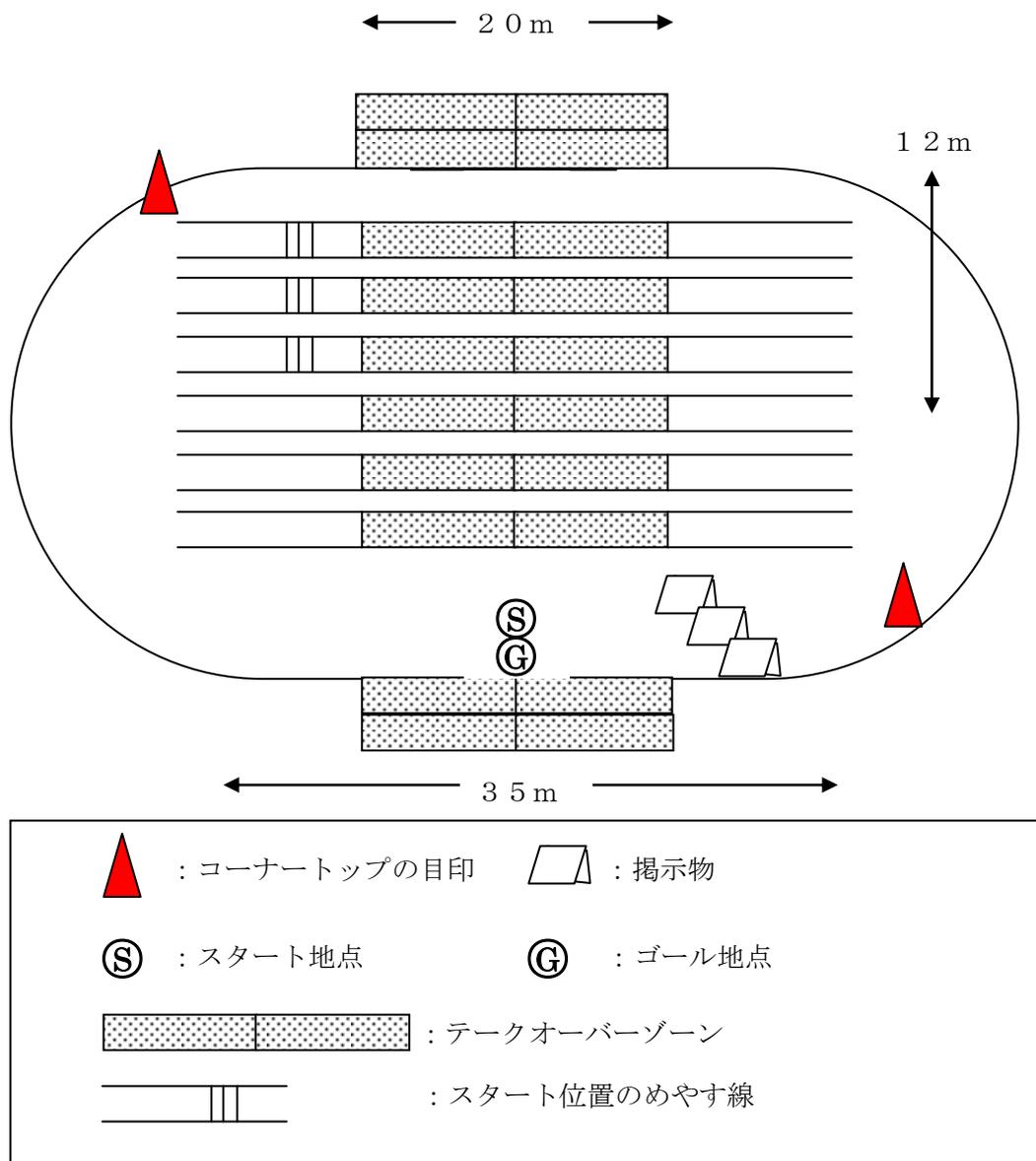
さらに、毎時間記録を計測する。スムーズなバトンパスができるようになったり、走り出す位置を工夫したりすることによる記録の伸びが視覚的にわかるようにグラフ化していくことで「記録が縮まるとうれしい」「記録を早くしたい」という願いが実感を伴って満たされていくだろう。

○場の工夫

1周150mのトラックを設定し、1人あたり半周ずつのリレーを行う。オープンリレーを行うが、テークオーバーゾーンのみセパレートコースとすることで、学習の中で大切にしているバトンパスをきちんと行えるようにしたい。また、同様な理由で競走を2チームで行う。競走は毎時間の始めと終わりに1回ずつ行い、一時間の中での対戦相手は変えない。

150mトラックでは直線区間がそれぞれ35m確保することができ、バトンを受け取ってからスピードに乗った状態でしっかり走ることができる。テークオーバーゾーンは、直線部分の中間点から前後に10mずつ（計20m）とすることで、外側を走るチームにも影響が少ないようにする。さらに、有効な使い方を伝えることで1人あたり75mの走路が55m～95mの幅をもたせることができ、個人の走力に合わせて走順や走り出す位置を考えながら取り組むことができるだろう。また、トラックの中に直線コースをたくさん用意することで課題に応じた練習が自由に行えるようにする。

【学習の場】

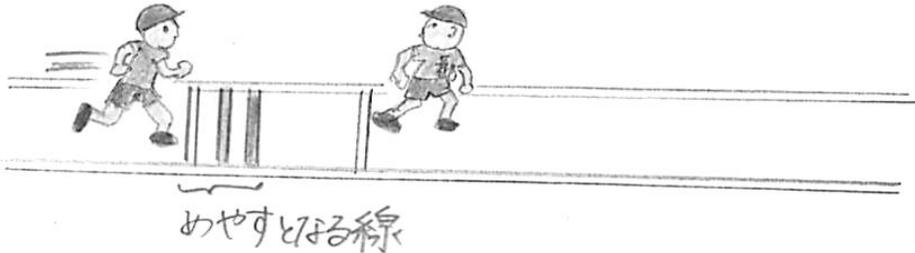
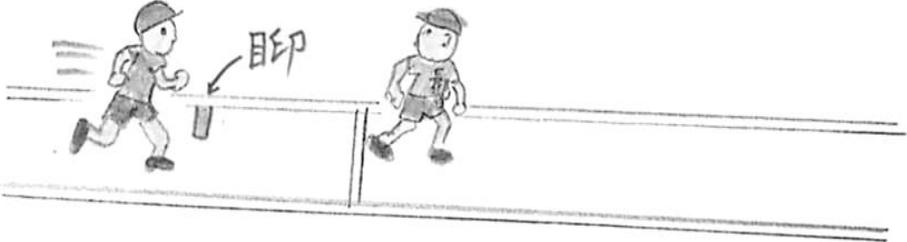


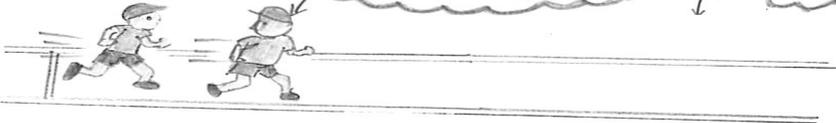
視点2 一人一人のよさを伸ばし、できる喜びを実感できる手立てを工夫する。

○減速の少ないバトンパスを身に付けるためのポイントの明確化

本学級の子どもの17名(68%)がバトンパスに難しさを感じている。また、自分に合っためあてをもてると回答した子どもは10名(40%)に留まった。これは、これまでのリレーにおける学習経験が少なく、具体的に何に気を付ければよいのか、どのような状態が望ましいのかが漠然としているからだと考えられる。そこでまず、トップアスリートの映像や上手にバトンパスを行っている子どもを手本とすることで、減速の少ないバトンパスとはどのような状態なのかイメージをもてるようにしたい。さらに、本単元では、「タイミングのよいスタート」「すばやい加速」「なめらかな受渡し」にポイントを絞る。これらのポイントは目指す姿として捉えさせ、その達成のために具体的な学習の仕方(バトンパス上達への道)を示すことで自分に合っためあてをもち、主体的に活動できるようにしていく。なお、「すばやい加速」ができるようになるとスタートするタイミング(位置)も変わってくる。その際には、前時を振り返らせ、よりよいタイミングでスタートできるように声かけをしていく。

《バトンパス上達の道》

タイミングのよいスタート	
①	<p>【線ありの場合】めやすの線を決め、友達がそこまできたらスタートする</p> 
②	<p>【線なしの場合】目印を置いて（つけて）、友達がそこまできたらスタートする</p> 
③	<p>目印を前後に調整してちょうどよいスタート位置を見つける（目印をなくしても OK）</p> 

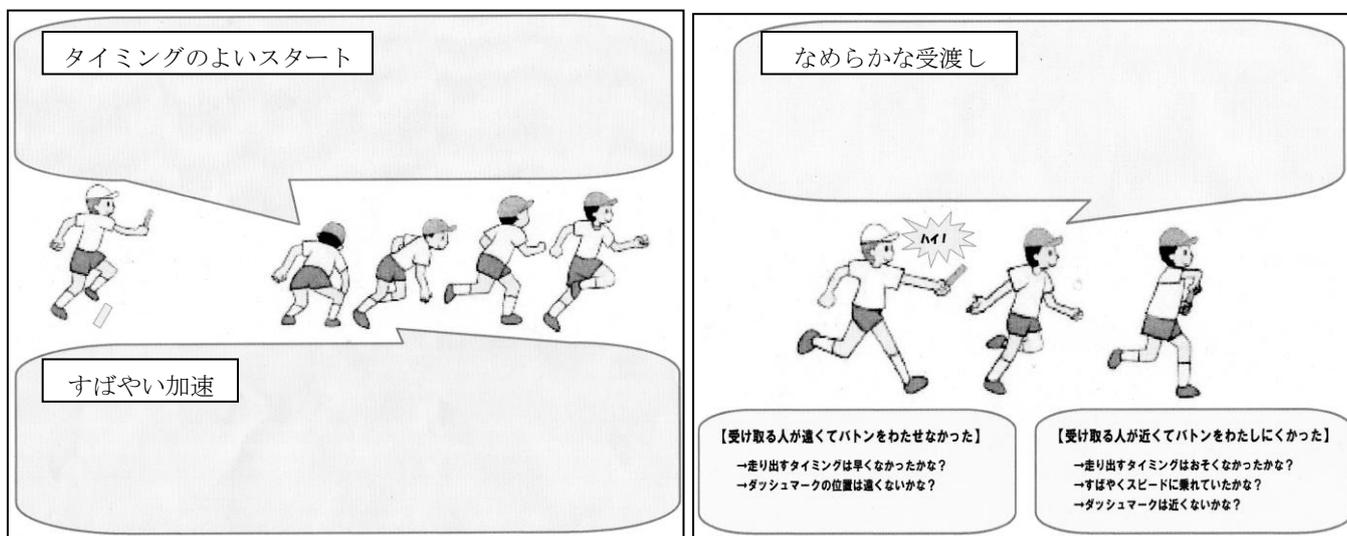
すばやい加速	
①	<p>全力で走り、<u>ぎりぎり</u>しっぽを取られないような位置でスタートして走る</p>  <p>フリップをとられないように<u>全力で走る</u> * ぎりぎりをとれるかと泳がないかがナイス!</p> 
②	<p>バトンを使ってやってみよう</p>  <p>後ろを向いた手で 加速しやすいかな?</p> <p>手を出した手で 加速しやすいかな?</p>



なめらかな受渡し	
①	【受ける人】「はい！」のかけ声ですばやく手を出す
③	【受ける人】手は肩の高さ位に出す
④	【渡す人】手のひらに確実に押し込む
④	ゆっくり走った状態で①②③ができる
⑤	前走者と同じようなスピードで①②③ができる

○「コツボード ～リレー編～」の活用

実態調査から「友達に対してアドバイスをすることができますか」という問いに対して、10名（40%）が「資料などを参考にすればできる」、5名が（20%）「むずかしそう」と回答している。めあて同様、リレーの学習経験の少なさから何を視点とすればよいのかが漠然としているからだと考えられる。2、3、4時間目は「タイミングのよいスタート」「すばやい加速」「なめらかな受渡し」を1時間に1つずつ示し、めざす姿として全体で確認する。自分が意識してうまくいったこと、その動きを身に付けるのに有効だった練習方法、友達にももらったアドバイスなどを記入していく。それらを「コツボード ～リレー編～」に加えていくことで、友達がどのようなことを意識して行っているのか、また、どのような練習が効果的だったかがわかり、自分の課題解決の糸口となる資料になるだろう。そして、5、6時間目にチームの課題に合った練習を行う際、このコツボードを参考にすることで、アドバイスの視点が明確になり、友達とよりよくかわり合いながら高め合っていけるだろう。



4 学習のねらい

○運動に進んで取り組み、助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。

【関心・意欲・態度】

○チームに合った練習や競走の仕方を工夫している。

【思考・判断】

○テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスができる。

【技能】

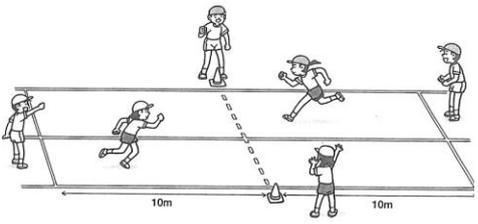
5 評価規準（概ね満足できる状況）

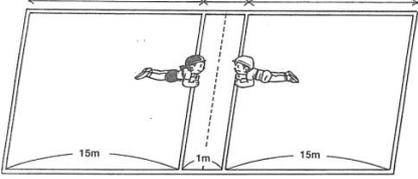
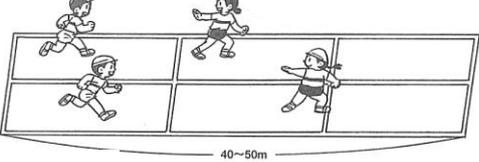
	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 競走したり、目標記録に挑戦したりする楽しさや喜びに触れることができるよう、陸上運動に進んで取り組もうとしている。 約束を守り、友達と助け合って練習や競走をしようとしている。 用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たそうとしている。 運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習の場や方法を選んでいる。 他のチームとの競走や自分のチームの記録への挑戦の仕方を知るとともに、自分のチームの力に合った競走のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一定の距離を全力で走ることができる。 テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① リレーに進んで取り組もうとしている。 ② 友達と協力し、安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。 ③ 友達同士で教え合ったり、励まし合ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 自分に合っためあてをもっている。 ② チームの課題に合った練習を選んでいる。 ③ チームに合った競走の仕方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① タイミングよくスタートすることができる。 ② すばやく加速することができる。 ③ なめらかに受渡すことができる。

6 学習の道すじ (本時 5/6)

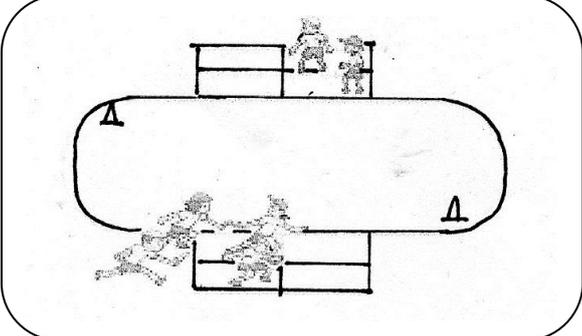
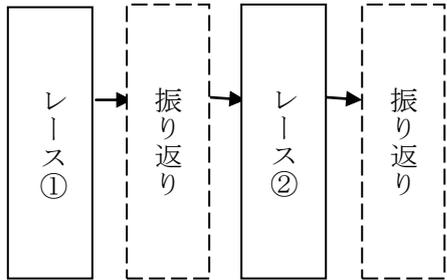
	1	2	3	4	⑤ (本時)	6	
0 ↓ 4 5	オリエンテーション ○学習の進め方を知る ○チームを知る ○試しの競走をする	つながる運動 (追いかけ走・スタートダッシュゲーム・2人の50mリレーなど)				ねらい バトンパスを工夫して競走を楽しもう	
		技能のポイント					
		タイミングのよいスタート	すばやい加速	なめらかな受渡し	チームの課題を選んで練習する		
		○各時間のポイントに対して、チームで助け合って練習する					
		○毎時間の始めと終わりに競走をし、記録を計測したり、アドバイスしあったりする					
						まとめ	
関	①	②			③		
思				①	②	③	
技		①	②	③			

7 学習活動と教師の支援

	学習内容と活動	教師の支援、指導 (○)・評価 (◇)
はじめ	<p>1 オリエンテーションをする。</p> <p>○学習の道すじ、学習の約束、安全面の確認をし、学習の進め方を知る。</p> <p>○学習のチームを知る。(チーム間の走力がほぼ等しくなることを確認する。)</p> <p>○トップアスリートの映像を見て、バトンパスのイメージをもつ。</p> <p>○つながる運動をする。</p> <p>○試しの競走を行い、記録を測定する。</p> <p>◇リレーに進んで取り組もうとしている。</p>	<p>【関心・意欲・態度①】</p>
なか	<p>1 学習の場づくりをして、つながる運動に取り組む。</p> <p>【スタートダッシュゲーム】</p> <p>: 合図にすばやく反応。すばやく加速。</p> 	<p>○一つ一つの運動のポイントを声かけすることで正しく行えるようにする。</p> <p>○タイミングよく反応してすぐに加速するために、教師の合図に集中してスタートの姿勢を保つように伝える。</p> <p>◇友達と協力し、安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度②】</p>

	学習内容と活動	教師の支援、指導 (○)・評価 (◇)
な か	<p>【追いかけて走】 ：走る距離の相談。すばやく加速。</p>  <p>【2人で短距離リレー】 ：合図にすばやく反応。スムーズなバトンパスの必要性。すばやく加速。</p>  <p>2 本時のねらいと活動を確認する。</p>	<p>○2人の距離を自分たちで相談させ、逃げ切れるか逃げ切れない勝敗の不確定さを楽しめるようにする。</p> <p>○テークオーバーゾーンの有効性に気付かせ学習に生かせるように、2人の走力に応じて走る距離を調整してよいことを伝える。</p> <p>○走力差があればハンデをつけてよいことを伝え、勝つか負けるかわからない状態を楽しめるようにする。</p>
	<div data-bbox="357 981 1375 1115" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>ねらい バトンパスを工夫して競走を楽しもう</p> </div> <p>【各時間における技能のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2時間目 → タイミングのよいスタート ・ 3時間目 → すばやい加速 ・ 4時間目 → なめらかな受渡し ・ 5・6時間目 → チームで選択 <p>3 技能のポイントを意識して、試しのリレーを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各レース2チーム対抗で行う。 <p>4 本時のポイントを意識して、チーム毎にバトンパスの練習をする。</p> <p>《予想されるめあてと練習の場》</p> <p>【タイミングのよいスタート】 Aさん：ラインありの場でスタートするラインを決めて走り出したい。</p>	<p>○上手にできているチームやペアを手本とすることでポイントとする動きを視覚的にわかるようにする。</p> <p>○【各時間における技能のポイント】を身に付けることが目的ではなく、そのような動きができるようになることで、よりリレーが面白くなることを伝える。</p> <p>○毎時間、対戦チームを変えていくことで意欲を持続できるようにする。</p> <p>○リレーを行っていないチームが出発、計測、観察をすることで助け合って学習が進められるようにする。</p> <p>○「バトンパス上達の道」の活用を促すことで、段階を追って活動できるようにする。</p> <p>◇自分に合っためあてをもっている。</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断①】</p>

	学習内容と活動	教師の支援、指導 (○)・評価 (◇)
	 <p>Bさん：前の人との距離感をつかめてきたのでフラッグで合図をしてもらって、スタートできるようにしたい。</p>	<p>○タイミングがつかめてきたら、より競走時に近づけるために、フラッグなしで練習するよう促す。</p> <p>○スムーズなバトンパスに近づけるように友達に見てもらい、走り出すタイミングが合っているか、確認するよう促す。</p> <p>◇タイミングよくスタートすることができる。 【技能①】</p>
な	 <p>【すばやい加速】</p> <p>Cさん：手を出したまま走ってしまうので意識してきちんと加速したい。</p>	<p>◇チームの課題に合った練習を選んでいる。 【思考・判断②】</p> <p>○後ろを向いたり、手を出したまま走ったりする子どもには、友達の「はい」の声がかかるまでは前を向いたまま手を出さずに走ることを意識するように伝える。</p>
か	 <p>Dさん：しっぽを取られないように全力で逃げ切りたい。</p>	<p>○後ろを向いたり、手を出したまま走ったりする子どもには、友達の「はい」の声がかかるまでは前を向いたまま手を出さずに走ることを意識するように伝える。</p> <p>○前走者から逃げたときに、近すぎる場合や遠すぎる場合は、スタートするタイミングや、加速の仕方に目を向けられるように声をかける。</p> <p>○自分の課題に対して、一生懸命取り組んでいる子どもや、それを助け合っているチームを称賛することで、学習への意欲を高める。</p>
	 <p>【なめらかな受け渡し】</p> <p>Eさん：前の人が出しやすいうように手を出す位置を高くしたい。</p> <p>Fさん：手のひらの出し方を考えて受取りやすいようにしたい。</p>	<p>◇すばやく加速することができる。 【技能②】</p> <p>○テークオーバーゾーンの有効的な使い方や、走順を考えさせることで、チーム内で走力を補い合ったり、スムーズにバトンパスが行えるペアを探し出したりできるよう声をかける。</p>

	学習内容と活動	教師の支援、指導 (○)・評価 (◇)									
な か	<p style="text-align: center;">学習内容と活動</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>5 学習したことを生かして2チーム対抗リレーを行う。各レースの間に観察チームも含めて振り返りを行う。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>《リレーの対戦順(例)》</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">レース①</td> <td style="text-align: center;">レース②</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">対戦相手</td> <td style="text-align: center;">黄 - 青</td> <td style="text-align: center;">赤 - 白</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">観察チーム</td> <td style="text-align: center;">赤・白</td> <td style="text-align: center;">黄・青</td> </tr> </table> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>6 4チーム対抗リレーを行う。</p>		レース①	レース②	対戦相手	黄 - 青	赤 - 白	観察チーム	赤・白	黄・青	<p>◇なめらかに受渡すことができる。 【技能③】</p> <p>○「その時間のポイント」を意識して行えるように声かけをすることで、学習を生かしたリレーができるようにする。</p> <p>○観察係には、2、3、4時間目にはその時間のポイントを、5、6時間目には担当するチーム(友達)が何に気を付けるのかを把握するように声をかけことで見るポイントを明確にできるようにする。</p> <p>○アドバイスする際は、コツボードやバトンパス達人への道を参考にしてよいことを伝える。</p> <p>○出発係には、運動が安全に行えるように準備が整っていることを確認できるように全体に声をかけるように伝える。</p> <p>○計測係には、立ち位置や胴体をゴールとすることなどの計測方法をきちんと指導することでなめらかな記録が計測できるように確認する。</p> <p>◇友達同士で教え合ったり、励まし合ったりしようとしている。 【関心・意欲・態度③】</p> <p>◇チームに合った競走の仕方を工夫している。 【思考・判断③】</p> <p>○ダッシュマークを自分のスタート開始地点にしっかりと置くように声をかけることで、本時までの学習を生かせるようにする。</p>
	レース①	レース②									
対戦相手	黄 - 青	赤 - 白									
観察チーム	赤・白	黄・青									

	学習内容と活動	教師の支援、指導 (○)・評価 (◇)
な か	<p>7 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに記入する。 ・次時の内容を確認する。 <p>7 片付けを行う。</p>	<p>○スタート位置が子どもによって異なるので、自分がスタンバイすべきコースでしっかり待つことを確認し、安全に配慮できるようにする。</p> <p>○次時の学習につながるバトンパスの受渡しができているチームを取り上げ、新たな課題をもてるようにする。</p> <p>○コツボードをみんなが活用できるように、技能のポイントについて意識したことやアドバイスしたこと、自分なりのコツなどを学習カードに記入するよう声かけをする。</p> <p>◇友達と協力し、安全に気を付けて準備や片付けをしようとしている。</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度②】</p>
ま と め	<p>8 学習の振り返りをしてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○運動に進んで取り組む中で、助け合って運動したり、場や用具の安全に気を配ったりすることができたか。 ○チームに合った練習や競走の仕方を工夫できたか。 ○テークオーバーゾーン内で、減速の少ないバトンパスができたか。 	